

平成28年度 第3回 静岡市スポーツ推進審議会 会議概要

- 1 日 時 平成29年1月30日（月） 15時から17時まで
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎 9階 特別会議室
- 3 出席者 **【委員】**（50音順・敬称略）
池谷孝、熊谷正泰、笹本とよ子、志田浩政、鳴海恵理子、松崎晃、
村越真、村田真一、百瀬容美子、山野良成、山本尚佳
【事務局】
秋山健スポーツ振興課長、鈴木章文課長補佐兼スポーツ振興係長、
福井秀明葵・駿河施設係長、松浦吉洋主幹兼清水施設係長、
望月哲也ホームタウン推進担当課長兼係長、
井上昌彦主査、本間万起子主査、室井彩主任主事
- 4 欠席者 青木秀剛、片岡佳美、北川知美、笹村直也
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題 (1) 前回審議事項「支える」スポーツの報告
(2) スポーツ推進計画における（公財）静岡市体育協会の位置付け
について
(3) スポーツ振興課の今後の事業の方向性
(4) 建議書の構成について
- 7 会議概要 下記のとおり

【概要】

1 開会

- (1) 会議成立（委員半数以上の出席により会議成立）

2 議題

- (1) 前回審議事項「支える」スポーツの報告

【事務局説明】

- ・ 前回、ワークショップで話合っていた内容を以下のとおりまとめた。
- ・ 部活動とは、教育活動の一環であって、人間形成、礼儀、忍耐力を養う場、子ども達の健全育成の場であるということで、勝ち負けにこだわりすぎてもよくない。
- ・ 保護者からの勝たせてあげたい、部活動にしっかり取り組ませてあげたい、という思いが勝利至上主義につながっているところがある。
- ・ 教員にとって、経験したことのない競技の顧問に指名されること、また、休日に開催する大会への参加などの負担がとても大きい。
- ・ 部活動のガイドラインで目指す目標像、指導方針をしっかりと示し、生徒、顧問、外部指導員、保護者で共通認識を持つ必要がある。

- ・活動日数、活動水準、責任範囲、報酬体系などのルール作りが必要。
- ・学校の顧問と外部指導員が共通認識を得られるよう、研修等のシステムの構築が必要。
- ・セカンドキャリアを描けるような環境があれば、競技スポーツにより熱心に打込むことができる。
- ・指導者の地位を高めたい。
- ・社会体育としても、部活動とは違う受け皿として、クラブチームやスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなど、楽しく運動できる環境があることを行政はPRしていく必要がある。

【委員からの意見】

(前回欠席した委員の一人より)

- ・大会要項の作成、会場準備等、大会の運営に携わらなければならないことの負担感が大きい。自分のチームの試合が終われば、次の試合の審判をせねばならない。
- ・中体連は年に1回だが、それ以外の大会も多く、負担が大きい。そこを理解していただきたい。

(前回欠席した委員の一人より)

- ・スポーツ少年団のミニバスの指導者が居ないということを聞いている。切実な部分がある。

(前回出席した委員の一人より)

- ・新潟のアルビレックスのように、雇用を生み出す仕組みがあると良い。ある程度安定した収入を得られる仕事に、運動をやった子がつけるようになれば良い。そうすれば、運動を一生懸命やる子も増える。

(前回出席した委員の一人より)

- ・体育協会ではマッチングということで、指導者を探している方に紹介する仕組みがあるが、養成するシステムの構築など、指導者を増やしていく方策も必要。

(2) スポーツ推進計画における(公財)静岡市体育協会の位置付けについて

【事務局説明】

- ・出資団体監査で静岡市が出資している体育協会について、意見をいただいた。
- ・スポーツ推進計画等、市の行政計画に体育協会の役割や位置付けが示されていないこと。また、市は体育協会と真のパートナーシップを築くべく、そのビジョンや期待する姿を明確にする必要がある、との意見であった。
- ・実際、体育協会が担っている事業はたくさんあり、実施計画には掲載されているが、本文で体育協会という単語が出てこないため、体育協会の果たしている役割が見えづらい。
- ・前身のスポーツ振興基本計画では、「計画の推進体制」という章でスポーツ推進を進めていく組織ということで触れられていた。が、推進計画ではその章自体がカットされてしまった。

- ・ 体育協会は市内の競技団体を束ねる組織で、競技スポーツの要。また、指定管理者として体育施設で多くのスポーツ教室を実施することで、生涯スポーツの裾野を広げている。
- ・ 体育協会がスポーツ推進に必要な組織であることは事実であるので、今後、推進計画の見直しでその旨の記述を追加すること、また、その前段として建議書の中で体育協会について触れることについてご意見をいただきたい。

【委員からの意見】

- ・ 体育協会の事業は、静岡市スポーツ推進計画に沿って進めている。外郭団体としての体育協会の位置付け方は難しいが、実際、推進計画に基づいているのは事実なので、市民の方々に見える形にさせていただけるのはありがたい。

(3) スポーツ振興課の今後の事業の方向性

【事務局説明】

- ・ 駿府城公園周辺ランニング環境等整備事業（ランニングステーションの設置）
- ・ 組織機構改正により、スポーツ交流課を新設
- ・ スポーツ交流課内に高校総体準備室を新設（H30年度に高校総体）
- ・ ラグビーワールドカップやオリンピック開催に向けた合宿誘致活動
- ・ 静岡マラソンの継続実施
- ・ 自然環境を活かしたトランスジャパンアルプスレース、日本平ウォーク等への支援
- ・ 体育館の天井改修（中央体育館、西ヶ谷総合運動場屋内プール、長田体育館、南部体育館、東部体育館という順番でH30年度までに完了予定）
- ・ 清水庵原球場第二期整備（サブグラウンドの造成工事）
- ・ 全国少年少女草サッカー大会の継続開催
- ・ プロ野球フレッシュオールスターゲーム（草薙球場 7月13日）の開催
- ・ プロ野球オープン戦、公式戦の開催
- ・ ホームタウンチームとの連携
- ・ エスパルスアウェイ戦のパブリックビューイングの実施

【委員からの意見】

- ・ 情報提供ですが、2020年、本来であれば関東地区で中体連の全国大会開催の予定が、オリンピックの関係で東海地区開催になる。ご協力をお願いしたい。
- ・ プロ野球地元球団創設を見据えてプロ野球のイベント等開催するようだが、その見据え具合はどんなものか。

↓（回答）

- ・ 野球イベントを誘致し、市民の野球熱の醸成、野球関係団体との関係構築をしている状況。

(4) 建議書の構成について

【事務局説明】

- ・今期（2年間）の諮問：「スポーツ実施率の向上」
- ・下記のとおり構成を考えている
前段：時代背景、国の動き、諮問事項、市審議会の動き
本段：「観る」「する」「支える」で実施したワークショップの成果
推進計画を推進する体制（体育協会の位置付け）
まとめ：実効性を高めるために、実施計画の進捗管理の徹底、新たな試みを形に

【委員からの意見】

- ・まとめの「実効性を高める」の部分は本段とどう関係するか？
↓（回答）
実効性を高める方策についてワークショップで話し合っ下さっているので、内容的には本段と重複する形になる。見せ方、仕立て方については検討し直したい。
- ・時代背景についてはどんなイメージか？
↓（回答）
ラグビーワールドカップやオリンピックなどビッグイベントの開催、少子高齢化、ワークライフバランスへの配慮など。国のスポーツ基本計画の見直しも進んでいるので、それも踏まえ検討していきたい。

(5) その他委員からの感想など

- ・健康への危機感がスポーツのきっかけになることも多い。ドイツなどは仕事と自由時間のメリハリがある。静岡の人についてもその気運が高まると良いと思う。
- ・葵・駿河区民総体は来年度から葵区、駿河区、それぞれで体育大会を開催することとなった。今後はスポーツ推進委員と自治会とで作り上げていかなければならない。種目の選び方など、自治会から参考になる意見をいただいている。
- ・参加者を増やす大変さを実感している。運動したい・したくないではなく、そもそも家から出たくないという人が多い。休みの日は家でゆっくりしたい。そういう方に楽しいよ、出会いがあるよというのをいかに伝えていくか。スポーツ推進委員の中でも課題になっている。
- ・体育協会では、施設に來られない方を対象にアウトリーチ（出張）活動を始めて、好評をいただいている。
- ・今度、学習指導要領も変わってくるが、学校の体育の項目に「運動が苦手な子に配慮しましょう」と付け加えられた。草薙でバスケットの試合を観に行ったら、常葉学園の子たちが実業団に入った先輩を出待ちして話していて、すごく良い雰囲気だった。学校としてはスポーツに携わる人達と仲良くなって、興味を持つところを伝えていきたいと思う。
- ・ワークライフバランス、本当に難しいと思う。自分は定年退職していて、午前中も

トレーニングしてからここに来た。時間がある。でも時間が無い若い人にどう伝えるか。中学まではやったけど、その後止めてしまったとか、やる気はあるけどできないという人達にどう働きかけるか。考えていかないとならない。

- ・職場のスポーツ環境を考えないといけない。スポーツ振興法から基本法になった時、「職場のスポーツ」は削除されてしまった。そこは逆行してるんじゃないかと思う。そこにメッセージを送れたら変わってくると思う。
- ・体育館の天井改修については計画的に進めていただいて、ありがたい。
- ・スポーツ活動に心理学が必要だというのがなかなか浸透してこない。運動したくない、家から出たくないという気持ちに対しても何かできれば良いなと思う。
- ・「する」については競技スポーツの面で、生徒が頑張ったあとの出口を考えてあげたい。「観る」については経済をどう動かしていくかという部分。スポーツは苦手だけど、観るのは好きという人も居る。「支える」については部活指導の部分。良い指導をして、運動って良いものだよと伝えていきたいけど、時間の余裕が無くなってくると、一生懸命やろうとする人ほどうまくいかなくなる。それを理解していただけるとありがたい。
- ・最近になって、コナミやホークワンなど民間のスポーツクラブが経営が難しく、閉鎖されている。長く通っている方については、ここが無ければ他に行くところが無いという人も多い。高齢者の方は場所が近いというのが大事。そういう配慮も必要だと思う。

3 伝達事項

建議書（案）については2，3月に各委員あて郵送させていただく。ご意見をいただいで、来年度の6，7月に建議書の最終案について提案させていただきたい。